

ISIS の爆撃に見せかけたモスルにおけるアメリカの終末

【訳者注】驚くべきことだが、私の周囲だけでも、いまだにかなりのアメリカ信者がいて、アメリカが悪いことをするはずはないと信じようとしている。そういう人は（できれば「ロ米停戦協定が崩れ、シリアの市民の死が急増」と併せて）これを読んでいただき、新聞やテレビの言うこと（あるいは言わないこと）と、どちらが正しいか判断していただきたい。注意しておきたいが、事実を共有することと、憎しみや恐怖を煽ることとは全く別である。

この論文が細かく例をあげて言うように、アメリカの犯罪は「胸が悪くなる」ほど悪質である。この一般市民に対する故意の犯罪行為は、ただの悪ではない。悪の追及が米政府の方針ではないかと言いたくなる。論者は、ジョージ・W・ブッシュの偽善のスピーチと現実を比較しながら、「裏切りがこれ以上ひどかった例があるだろうか？」と言っているが、これは普通の感情をもった人間にできることではない。

Felicity Arbuthnot

April 28, 2016, Information Clearing House

とりわけ人民の福祉が、いつも暴君のアリバイになってきた

——アルベール・カミュ、1913-1960

2003年5月、ジョージ・W・ブッシュは、米艦アブラハム・リンカンの甲板上に飛行服のようなものを着て立ち、特別の劇場的な効果を狙って、世紀の大ウソをついた——

<http://www.cbsnews.com/news/text-of-bush-speech-01-05-2003/>

イラクにおける大きな戦闘行動は終わりました。イラク戦争においては、合衆国と我々の同盟国が勝利しました。そして今、我々連合軍はこの国の安定と再建に取りかかっています。

イラクの不法占領と人民殺しは2011年12月まで続いた。2014年6月には、彼らはISISと戦うように見せかけて再び爆撃に戻った。巨大な“任務完了”の旗を後ろにしたブッシュの滑稽な出演から13年たって、イラクは大きく荒廃した。イラクの人々は、殺人的な“解放”とその余波から、何百万という単位で逃れ、300万人以上が国内亡命者になっている。

この国家は、暴政的な腐敗したアメリカの傀儡政府——人を殺し、首を刎ね、強姦し、内臓を食らい、歴史を抹消する、アメリカ製の ISIS——と、新たに始まった無慈悲なアメリカの爆撃の間で、身動きできなくなっている。2011年12月31日までに「すべての米軍はすべてのイラク領内から撤退する」と言明した、2008年の米 - イラク軍事協定の結果は、この体たらくである。

米艦アブラハム・リンカン上でブッシュは言った——

この戦争において我々は、自由という大義のために、また世界の平和のために戦いました。…あなた方によって、我が国はより安全を確保しました。あなた方によって、暴君は倒れ、イラクは自由になりました。

記念碑的なアイロニーともいべきこのスピーチで、彼は続けた——

イラクの解放は、テロとの戦いにおける決定的な前進でした。我々はアルカーイダの同盟者を排除し、テロリストの資金源を断ち切りました。

もちろん、イラクにアルカーイダは存在せず、サダム・フセインの下に根本主義テロリズムを支援する組織もなかった。それは、この侵略が懐胎され、生まれた時であり、今それは、バグダッドからブリュッセルへ、モスルからマグレブへ、ラタキアからロンドンへと成長している。

イラクでは、空からのアメリカのテロが、そのすべての民族抹殺的暴力をもって、戻ってきている。

信じられないことだが、4月23日、インデペンデント紙が、またしても啞然とする偽情報または子供だましを報道した。それは予言可能な見慣れた文章で、「米軍報道官は、“付随的災害”を避ける、可能なあらゆる手段が取られたと言った」と書き、7000回近い空爆で、確認された市民の公式死亡者数は、たった41人にすぎなかったと言っている。

<http://www.independent.co.uk/news/world/middle-east/official-civilian-death-toll-from-us-air-strikes-against-isis-in-syria-and-iraq-doubles-to-41-a6997341.html>

別の聞き飽きた決まり文句では、こう言っている——

セントラル・コマンドの報道官 Patrick Ryder 大佐は、死傷者は「深く憂慮すべき」ものだったと述べる一方で、この戦闘は「戦争の歴史の中で最も正確な空爆だった」と主

張した。

次も聞き覚えのあるものだ——

この種の武装闘争では、特に市民の中に敵が隠れている場合には、不幸なことだが、時に市民の死傷者が出ることもある。

他の条約の中でも、「ジュネーブ条約」の「原則と慣行」は、戦闘における一般市民の保護を特に謳っており、ライダー大佐はこのテキストをよく知っておくべきである。

だから四半世紀のイラク爆撃の、もう一つの猛攻撃が（シリアで）行われている——大量殺人に **Operation Inherent Resolve**（内在決議作戦？）という馬鹿げた名前をつけて。

次に述べるのは、**Dr. Souad Al-Azzawi**（賞を得ている環境科学者、コロラド・スクール・オブ・マインズから学位を取得）から得た現実の情報である。

彼女は、自分の故郷であり、人口 150 万の古い大学都市、モスルの虐殺についてだけ述べているのだが、アメリカの報道官のあげている数字は、「ドローンや、ガイドされたミサイルが使われ、また空爆が盲目的であることを考えると、現地の本当の事情について、間違った情報が伝わっているか、真実を言っていないかどちらかだ。」

彼女はこう付け加えている——

私は、米軍の空襲がモスルで標的にしている建造物や、殺している人たちの、一部をリストしようと思います。

破壊されているのは、すべての官公庁建築物で、モスルの右側と左側にある市庁舎も含まれます。彼らが夜中に爆撃するときには、すべての保安職員たちが、近隣の住民も含め、殺されるか負傷しています。隣接した建物や施設も破壊されています。

すべての通信センターが爆撃され破壊されています。

モスルの左右両側にある乳製品加工場が破壊されています。これら 2 つの工場の死傷者は、牛乳や乳製品を工場に受け取りに集まった市民で、死者が 100 名、負傷者が 200 名います。

Al-Azzawi 博士は、これはちょうど 1991 年、バグダッド郊外の乳児用ミルク工場を、化学兵器工場だと主張して爆撃したときに、似ていると指摘した。筆者（女性）自身も、数か月後にこの工場の廃墟に行ってみた。ミルクパウダーの焦げたコンテナがまだあり、この機械は、乳児食品生産を専門とするイギリス、バーミンガムの会社によって補給され維持されていた。

*モスル医薬品製造工場の爆撃。

*モスル大学が爆撃され、92 人の死者と 135 人の負傷者が出た。以前の推計はもっと高かったが、多くの人々が瓦礫の下から生きて引き出された。「彼らは学生、教授、事務職員、教授の家族たち、食堂の職員たちでした。」

*Al Hadbaa および Al Khadraa 住宅アパートメント構内——家族の 50 名が死に、100 名が負傷。

*モスル右側の Hay al Dhubat 住宅地——2 日前、5 人の女性と 4 人の子供が殺され、家全体が破壊された。父は ISIL とは何の関係もない、尊敬されていた薬剤師だった。

*医科大学の前の家々の破壊、22 人の市民が死んだ——11 人は一家族だった。

*スンニ派 Waqif ビルディングの爆撃——20 人が死に、70 人負傷。近くの店舗や住宅ビルも含まれる。

*モスルの左右両側の車両整備工場地帯が破壊され、市民の死傷者も。

*モスル両側の小麦粉工場の爆撃。

*Rafidain 銀行と Rasheed 銀行、およびモスル両側のそれらのすべての支店。これらの場所周辺すべての商業および住宅地域が破壊され、現在、未知の市民死傷者がいる。

*Ghazi 通りのモスル中央銀行、および近くの商業および住宅地の資産。

*ペプシ工場、現在アイス・キューブだけを生産している。労務者の 3 人が死に、12 人が負傷。

*知事の住宅と近くのゲストハウス。

*モスルの古い工場地域が、燃料タンクや駐車場とともに破壊。3日前、燃料タンクの巨大な爆発があり、150人の死者と負傷者。

*Hay al Maliyah の都市計画司令部の爆撃。

*同工事計画司令部の爆撃。

*モスル左側の食糧貯蔵庫が爆撃される。

*飲料水処理工場が爆撃される。

*モスル左側のすべての発電と変電施設の爆撃。

*モスル左側の Domez 土地流通センターが破壊。

*Al Hurairah 橋、他多くの橋が破壊される。

これらの標的には、胸が悪くなるような、なじみのある項目がある——食糧、医薬品、飲料水処理工場、発電、通信、教育施設、橋（この国と町や都市は、チグリスおよびユーフラテス川によって分けられている）といったものは、1991年以來、好んで標的にされている。苦勞して、想像力を用いて復元されるたびに、それらが再び爆撃されるということが、四半世紀も続いてきた。

1990年代に、あるカナダの映画チームが、アメリカの飛行機が爆弾を落とす光景を撮ったことがある。それは収穫されたばかりの小麦と大麦を燃え上がらせ、ある地方の収穫全部を燃やし尽くし、その上、国家の過酷な輸入禁止制裁のために、社会のいくつかの場所は飢饉に近い状態に陥った。

「イラクの市民たちが、我々の奉仕活動をする人々の顔を覗いたとき、彼らはそこに、力とやさしさと善意を見ました」と、ジョージ・W・ブッシュは“任務完了”演説で言った。

それは違う。彼らが見たものは、彼らの生活と家族と歴史を破壊し、強姦と略奪をする侵略者だった。彼らはファルージャの破壊、Abu Ghraib の恐怖、そして他の 11 の秘密の牢獄と悪夢がいつまでも続くのを見た。

4月25日に Al-Azzawi 女史は加えてこう言った——

昨日 2016年4月24日、さらに多くの戦争犯罪が、アメリカ連合軍によって加えられました。連合軍の飛行機は、モスル市左側の Rashidiya 浄水処理工場と、モスル右側の発電所を爆撃しました。住民たちの生命を支えるのに必要な設備を標的にすることによって、連合軍は ISIS と戦うと見せかけて、モスルの住民に対する民族抹殺行為を行っているのです。

また同じ日、国連人権高等弁務副官 Kate Gilmore は、イラクでの1週間の滞在から帰り、その政府について、辛辣に次のように書いた——

<http://www.ohchr.org/EN/NewsEvents/Pages/DisplayNews.aspx?NewsID=19871&LangID=E>

イラクは、公平と承認、正義と評価、そして自分たちの未来の形成——後退でなく前進のプロセス——への意味のある参加を求めて、叫んでいる。…我々すべてがイラクの人々に対する責任を負っている。国際的な軍事連合というものはあるが、イラクの永続する平和のための組み立てブロックを提供するためには、同じような資金による、現実的な共感をもつ国際的連合が必要である。

米軍の辞書では、“共感（同情）”という言葉は、彼らの高性能ミサイルによって置き換えられたようだ。

ギルモア女史はまた、イラクは無能な政府によって運営されていると言明し、外国がこれに乗じて「共犯関係」を結び、平均的なイラク人の苦境を無視することがないように警告している。<http://jordantimes.com/news/region/un-envoy-says-war-goals-iraq-obscuring-humanitarian-crisis>

彼女は、「国際社会は、イラクの無能なリーダーシップに乗ずる者がいないようにすべきだ。…イラクは政治的な麻痺状態にある、イラクには政府がない」と言い、アメリカとイギリスによる、不法な、流産必至の議会計画を、手ひどく批判した。

「我々の自由を大切にすることはアメリカの伝統です。…我々は人間の自由を代表する者たちです」と、米艦アブラハム・リンカン上で、ブッシュは結んだ。

裏切りがこれ以上ひどかった例があるだろうか？ そしてジョージ・W・ブッシュやトニー・ブレア、それに彼らの仲間たちは、国際法廷で彼らの犯罪を認めるだろうか？

(フェリシティ・アーバスノットは、イラクについて特に詳しいジャーナリスト。World Almanac ブックス、大都市シリーズの『バグダッド』を Nikki van der Gaag とともに執筆。彼女はまた、2冊の賞を得たドキュメンタリー、ジョン・ピルジャーの *Paying the Price: Killing the Children of Iraq* および *Denis Halliday Returns* (アイルランド放送局) の調査主任だった。)